

環境に係る情報協議会

国営施設応急対策事業 新雨竜二期地区

1. 事業の概要(案)

《事業の目的》

本地区は、北海道雨竜郡雨竜町及び樺戸郡新十津川町に位置し、東側を石狩川とその支流の雨竜川、西側を尾白利加川に囲まれた平坦な地形の水田地帯であり、水稻を主体に小麦、大豆、メロン等の野菜類を組み合わせた農業経営が展開されている。

本地区の基幹的な農業水利施設は、昭和28年度から昭和48年度に行われた国営かんがい排水事業「尾白利加地区」及び「雨竜地区」により造成され、その後平成3年度から平成18年度に行われた国営農業用水再編対策事業「新雨竜地区」等により整備されたが、幹線水路や幹線排水路では水路の浮上や側壁が傾倒する不測の事態が生じている。さらに、ダムや頭首工では老朽化や厳しい自然条件による施設の機能低下が生じている。

このため、本事業では基幹的な用排水施設の機能を保全するための整備を行うことにより、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するものである。

《受益面積》 2,763ha(水田2,741ha、畑22ha)

《主要工事計画(案)》

ダム(改修)、頭首工(改修)、用水路(改修)、排水路(改修)、排水機(改修)

(「新十津川町農村環境計画」より)

《農村環境の現状と課題》

【現状】

新十津川町の西部は山岳地帯で、西北に暑寒別岳、奥徳富岳、南にピンネシリ岳があって両山の間に連坦する山脈の支脈が西から東に伸び、次第に低く平野部へと連なっている。

新十津川町の東部は石狩平野の一部で平坦な氾濫原であり、道内有数の良質米生産地として知られている。

【課題】

- ・自然環境の保全、貴重種の生息空間・良好な自然景観の維持
- ・低平地部における河跡湖の保全
- ・自然的・歴史的景観の再発見、保護、育成

《環境保全の基本的考え方》

- ・循環型の地域社会づくりを進め、新十津川の風土に根ざした環境・景観を次世代に引き継ぐ
- ・森林等の環境保全機能の維持、自然環境の維持保全、多面的な利活用を進める
- ・自然的・歴史的な環境を生かした農村景観の形成、緑の回廊の形成、農村地域の生活環境の改善と公共用水域の保全などを行う
- ・クリーン農業技術の向上による環境保全型農業を促進する
- ・地域住民参加による環境への配慮と維持管理を行う。

2. 環境に対する考え方

(「雨竜町田園環境整備マスタープラン」より)

《農村環境の現状と課題》

【現状】

雨竜町の西部には暑寒別岳を主峰とする増毛山地があり、雨竜沼湿原(ラムサール条約登録湿地)を中心とした暑寒別天売焼尻国定公園を有する山岳地帯となっている。

暑寒別岳山麓から雨竜川に緩やかに傾斜した地形を形成しており、東部一帯は平坦肥沃な農用地が拓けた田園地帯である。

【課題】

- ・田園地帯を維持する水利施設の維持・更新
- ・田園景観の保全
- ・周辺環境や自然環境との調和

《環境保全の基本的考え方》

- ・自然環境の保全と美しい景観の形成を重視
- ・安定した豊かな地域社会の創出と健康で文化的な生活環境の確保
- ・以上を基本として、総合的かつ計画的な土地利用を図る

3. 環境配慮計画

《基本方針》

本地域の高い作付率を誇る水田は、周囲の豊かな自然と調和し、四季折々の変化に富んだ自然豊かな田園景観を形成しており、本地域の河川や排水路等の水辺及び河岸段丘等の緑地には、希少種を含む多様な動植物が生息、生育している。

したがって、本事業における工事の際にはこれらの生息環境への配慮を図る。

《取り組み内容》

【生態系への配慮】

- ・鳥類の繁殖活動時期を避けた施工時期を設定する。
- ・施設を改修する際には、下流河川の魚類等の生息環境に配慮し、濁水流出の軽減に努める。